

団体等と連携しながら進めています。

二、牛深に栽培漁業センターを設置し積極的に栽培漁業を展開する基盤を作り、沿岸漁業構造改善対策事業の推進と相俟って漁場作り、魚づくり、人づくりを進めて行く計画であります。

三、育成指導体制
農業後継者の育成は単に県あるいは市町村だけでできるものではありません。後継者の志向を充分把握し、関係機関、団体特に両親、先輩農業者が各々の役割を分担し、地域ぐるみで取りくまねばならないと思います。このため各々の地域で今後の取り組みについて協議を進めています。

水産業

最近の国際的な食糧需給の問題、新しい国際海洋法制定の動きに伴い、国民の動物蛋白の五〇%以上を供給している水産業、なかでも将来の沿岸漁業に対する期待は大きいものがあります。このような情勢の中で、県は、本県の沿岸漁業を振興し、生産性の向上を計って、水産業を他の産業と比較しても所得格差の少ない魅力ある産業とするために、次のような対策を講じています。

一、本年度新たに制定された沿岸漁業整備開発法に基づき五十年以降五年計画で沿岸漁場の総合的な整備開発を計ります。

三、生産の担い手となるべき人作り対策については、従来から沿岸に配置している水産業改良普及員によって、現地指導に当たっており、更に後継者となるべき青年層の育成のために漁村青年育成対策事業を県漁業協同組合連合会、各単協とタイアップして積極的に進めております。

林業

山村の過疎化が進行し、高齢化、婦女子化の傾向に加えて、在村者の出稼も多くなり、林業研究グループの組織拡大も困難になっております。

しかし、林業経営の近代化をはかるためには、将来林業の担い手となる青少年に対する教育指導を強化し、近代的な林業経営を担当するにふさわしい資質をもった人材を育成するとともに、その積極的な実践活動を助長することがきわめて重要です。

このため、山村青少年を対象とし次のような総合的計画的な指導を行い、指導の中堅青年を育成しております。

①林業教室②林業技術交換研修③林研グループリーダー研修④県外、県内グループ交歓研修⑤青年の山プロジェクト推進。

このほか林業技術及び林業経営についての研修教育を行ない、高度の機械化技術等についての実践的技術と近代的な経営管理能力を有する者を養成するため、林業技術実習指導等施設を二ヶ年計画で整備します。



商工業

県内企業の大部分は中小企業であり、かつ同族企業であります。そのため経営者の経営のやり方により、その企業の命運が左右される状態にあります。

昨今の経済事情は大きく変動しており、今後の経営は経験や勘だけの経営をそのまま踏襲することではもはや企業を存立させることはますます困難な状態になってきております。

その意味からも、後継者育成は今後重要な課題になってきております。そのため、県は次のような事業を実施しています。

一、能力開発について、後継者の経営、経済知識及び実践力の向上を図るため、各種の研修、講演会の開催。

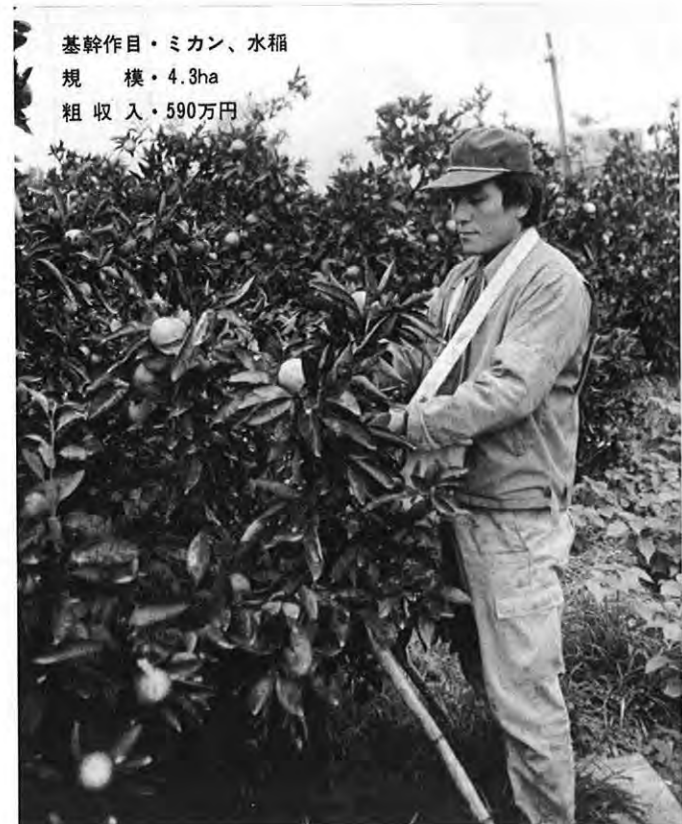
二、経営指導等について、後継者の経営をバックアップするため、専門の機関を設置して、経営診断、技術指導など。

これらの事業は、商工会議所及び商工会等の商工団体とタイアップして実施しており、又、商工団体独自でも青年部、婦人部の組織強化をはかり意識を高揚させるなど後継者育成に取り組んでいます。



基幹作物・トマト、メロン、水稲、みかん
組収入・5,850万円(施設園芸収入4,770万円)
構成人員・13名

▲上やさいハウス組合のトマト苗栽培



基幹作物・ミカン、水稲
規模・4.3ha
組収入・590万円

▲ミカンを採取する高峰さん

熊本県農業コンクール受賞者

組織農業部門―農業組合法人・上やさいハウス組合(代明町)
農業新人部門―高峰 務(24歳)(天水町)

農業が企業として成立つためには、経営規模の拡大が不可欠であると言われます。しかし、より不可欠なものは人的要素のように思われます。

ここでは、絶えず農業への意欲をかきたて創意工夫をこらし、豊かな農業の実現をめざしている団体、個人を紹介します。(昭和四十八年度受賞)